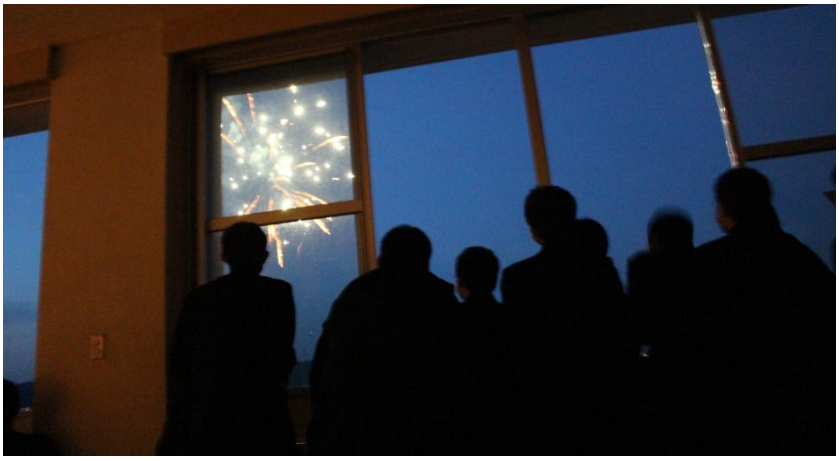
PTA企画『打上げ花火』　令和２年度

PTAの企画で大輪の花火が夜空にきらめきました。
間近で打ち上げられる迫力のある花火の美しさは生徒の心に残る素晴らしい思い出となりました。
企画に携わって頂いた皆さまありがとうございました。












９２発 ３年生に思い出花火　邑知中ＰＴＡら打ち上げ

2021年2月27日 05時00分 (2月27日 10時16分更新)

北陸中日新聞掲載記事より



打ち上げられた花火に見入る３年生たち＝羽咋市邑知中で



「つらかったものが、吹っ飛んだぐらいきれいだった」

コロナ禍でさまざまな行事が縮小された三年生たちに思い出を贈ろうと、羽咋市邑知中学校のＰＴＡは二十六日夜、校舎近くで花火を打ち上げた。二～四号九十二発が空高く花開き、生徒たちは歓声を上げた。　（林修史）

三密を避けてできることや、ＰＴＡの谷口真吾会長（４３）＝酒井町＝が花火業者「能登煙火」の臨時社員であることから実現した。一月から本格的に準備を開始。保護者や教職員らの寄付で打ち上げ費用二十九万円が集まった。

一、二年生は三階、三年生は四階へ。北向きの窓に張り付いた。目の前で大きな音を立てて大輪が咲くと「おー」の声。五分ほどのショーに笑顔の輪が広がった。打ち上げ後、三年生からは、外にいるＰＴＡへ向け「ありがとうございました」とお礼が響いた。

後期生徒会長で三年の藤岡響基（ひびき）さんは、柔道部主将だったが、大会はすべて中止となった。「今までつらかったものが、すべて吹っ飛んだぐらいきれいだった」と笑顔を見せた。

谷口会長自身も、次女の桜那（さな）さんが三年生、長男の晴琉（はる）さんが二年生。「学校から花火を見る経験はそうそうない」と話した上で「ありがとうの声で感極まった。良かったんじゃないかな」と生徒たちのいた校舎を眺め余韻に浸った。



テレビの取材もあり、企画に携わって下さった方々に感謝の気持ちを伝えました。